

感染症ニュース

No.252 2026/04/24

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

新型コロナウイルス感染症出現当初に比べると症状が軽くなり、受診しないまま行動し続ける方が多くなったため、流行が拡大しやすくなっている。それでも高齢者は重症化しやすいので、今後も高齢者の重症化予防のためには、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

インフルエンザ

昨年11月からA香港型(H3N2型)の変異株「サブクレードK」が大流行し、今年に入ってからB型が流行していた。GW明けまでは、まだ注意が必要。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、コロナ明けから高水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。

感染性胃腸炎

今年は、全国的にノロウイルスによるウイルス性胃腸炎の食中毒が多く発生し、富山県でも複数の報告あり。ノロウイルスにはアルコール消毒は効かないので、石鹸による手洗いを徹底する。

<注意すべき感染症>

麻疹 (はしか)

日本国内での麻疹の発症者が急激に増加している。海外渡航歴のない若年者の間で流行が広がっている可能性がある。麻疹は、麻疹ウイルスによる感染症で、空気感染で広がり、感染してから10~12日の潜伏期間の後、鼻汁・咳・熱などの風邪症状(カタル期)があり、一旦、熱が下がった後、再び高熱が出ると同時に全身に発疹が出現し、高熱は4~5日続く。肺炎や中耳炎、まれに脳炎を合併する。発症直前からカタル期の時期に感染力が強く、密な接触が無くても、一定時間、同じ部屋にいただけでも感染が成立する。特効薬は無い。予防にはワクチン接種が有効。